

9月、全日本学生フォーミュラ

県内3チームが抱負

県庁

学生が設計、製作したレーシングマシン 全日本学生フォーミュラ



大会への意気込みを語る学生＝県庁

ユラ大会(自動車技術会主催)に出場する静岡理工科大、静岡大、静岡工科自動車大学校3校の学生がこのほど、県庁で記者会見を開き、大会への意気込みを語った。

大会は9月4～8日に小笠山総合運動公園で開かれ、国内外の98チームが出場する。ガソリンエンジン車(ICV)と電気自動車(EV)の2部門がある。車両デザインや学生のプレゼンテーション能力をチェックする「静的審査」と、走行して加速性能や耐久性、燃

費などを競う「動的審査」で争われる。

チーム発足13年目の静岡理工科大は両部門に出場予定で、動的審査を重視。メカトラブルなどで達成できていないEV部門での「動的審査での完走」を目標に掲げた。

ICV部門出場の静岡大はマシンの重心を下げることに注力し、ハンドルの手元で変速操作ができるパドルシフトも導入した。目標の「完走と総合9位」に照準を合わせる。メンバーが21人と比較的小規模な静岡工科自動車大学校もICV部門に挑む。「昨年の67位から、40位以内を目指す」と意気込んだ。(政治部・名倉正和)